

# 設立趣旨書

## 1 設立趣旨

2000年9月の恵南（東海）豪雨被害でも明らかなように、森林、特に放置された人工林や耕作放棄農地の存在は、上流域のみならず下流域にも甚大な被害を及ぼす原因となるため、緊急の対策を要する。このことは全国的な課題であるものの、抜本的な対策が打ち出されていないのが現状である。これに対して、隣接する愛知県豊田市では、森林のことや山仕事を知らない森林所有者や都市住民のために、森林ボランティア団体やNPOと行政が協働して山仕事を科学的に教える森林塾、危険な実態を知る森林調査「森の健康診断」を大規模に行い、その結果森林所有者や都市住民の意識が大きく変わりつつある。

夕立山森林塾は、各種講座をとおして森づくりの大切さを訴え、森林ボランティアを育成し、素人山主に安全で科学的な山仕事の楽しさを伝えることで、地域の森林再生のみならず山村の活性化めざすものである。

このことは先進地である愛知県豊田市の事例を見ても明らかなように、ノウハウを持つNPOが中心となり、関係行政機関や地元、流域住民をつなぐことが不可欠である。

## 2 申請に至るまでの経過

対象地域では、2005年10月28日「土岐川庄内川源流 森の健康診断」が240名の参加で実施された。これは同年6月4日に愛知県豊田市で実施された「矢作川森林の健康診断」に次ぐ全国で2番目の市民による森林調査で、規模はそれを上回るものであった。地元の恵那市、瑞浪市、岐阜県、関係森林組合の後援や、国土緑化推進機構、中部大学、国土交通省庄内川河川事務所の協賛を得ながら実行委員会を立ち上げての実施であった。しかしながら、一般参加者に森林調査の指導をするチームリーダーは、前述の矢作川森の健康診断を主催した矢作川水系森林ボランティア協議会（矢森協）の全面的協力で20数名の派遣を依頼したものであった。そのため今後の継続的な実施に課題を残した。

そこで、同年12月同実行委員会の中心的メンバーで、任意団体として「夕立山森林塾」を設立した。団体の主たる事業は「森の健康診断」のリーダー養成、地域の森林ボランティアグループの育成、素人山主への啓発、さらに「地元学」のプログラム導入によって地域振興もめざすことにした。

2006年1月、前述の森の健康診断の参加者に対してや新聞報道などで呼びかけたところ、15人の募集に対して80数人の応募が殺到した。結果20人を1グループとし、秋までに3期計60人を受け入れることにした。反響の大きさに驚きながらも地元と下流の都市住民のニーズを再認識した。そこで、継続性確保と地域の期待への責任と行政機関との協働の必要性からこのたび特定非営利活動法人の設立となった。

平成 18年 3月 17日

特定非営利活動法人 夕立山森林塾  
設立代表者  
住所又は居所  
恵那市大井町2710番地99  
氏名

中神 嘉紀